

# 下北沢再開発

# 計画案に「ゴーサイン」

## 区都計審 賛成多数で答申

小田急線の地下化に伴う世田谷・下北沢地区の再開発問題で、区都市計画審議会は18日、再開発予定地を貫く都道の「補助54号線」整備を柱とした区の地区計画案などを9対5の賛成多数で可決、区に答申した。都も同日、同線の整備事業を認可した。事実上、都・区の計画に「ゴーサイン」が出たことになる。賛否両論の激しい対立が依然続くなか、開発計画は一歩踏み出した。

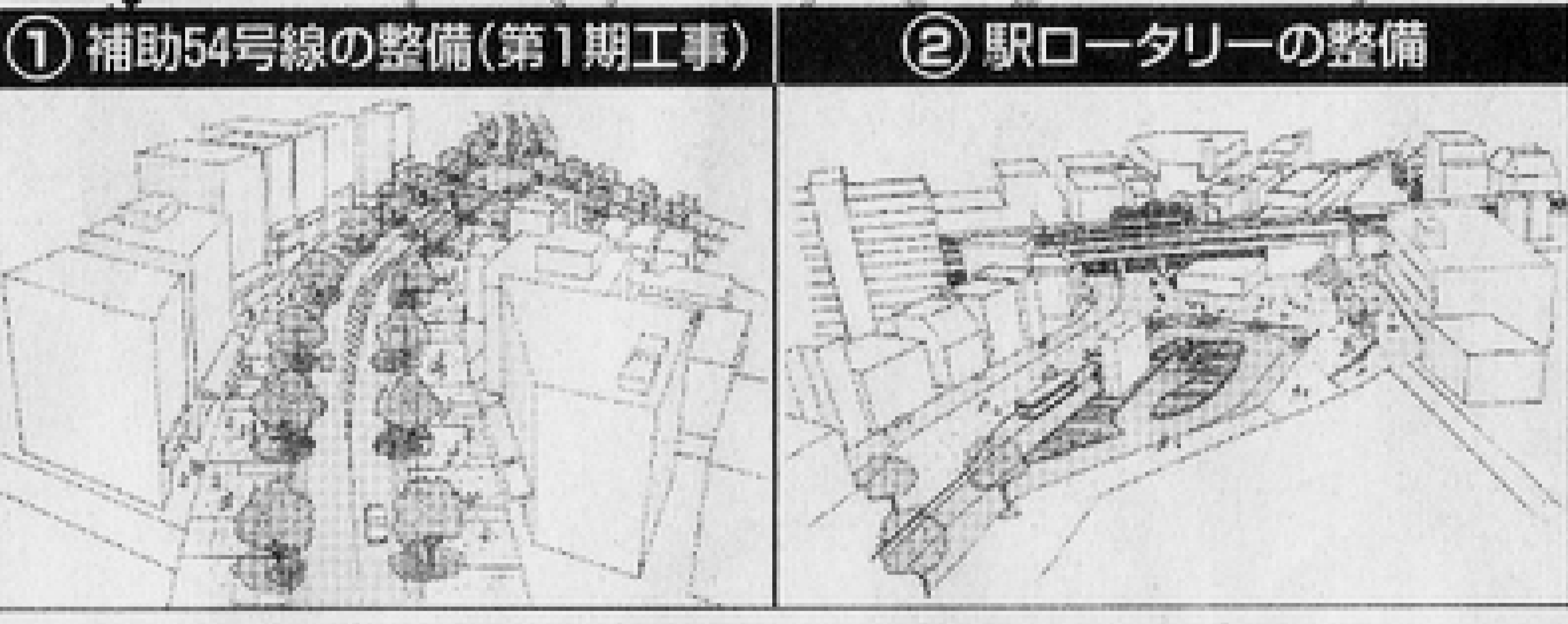
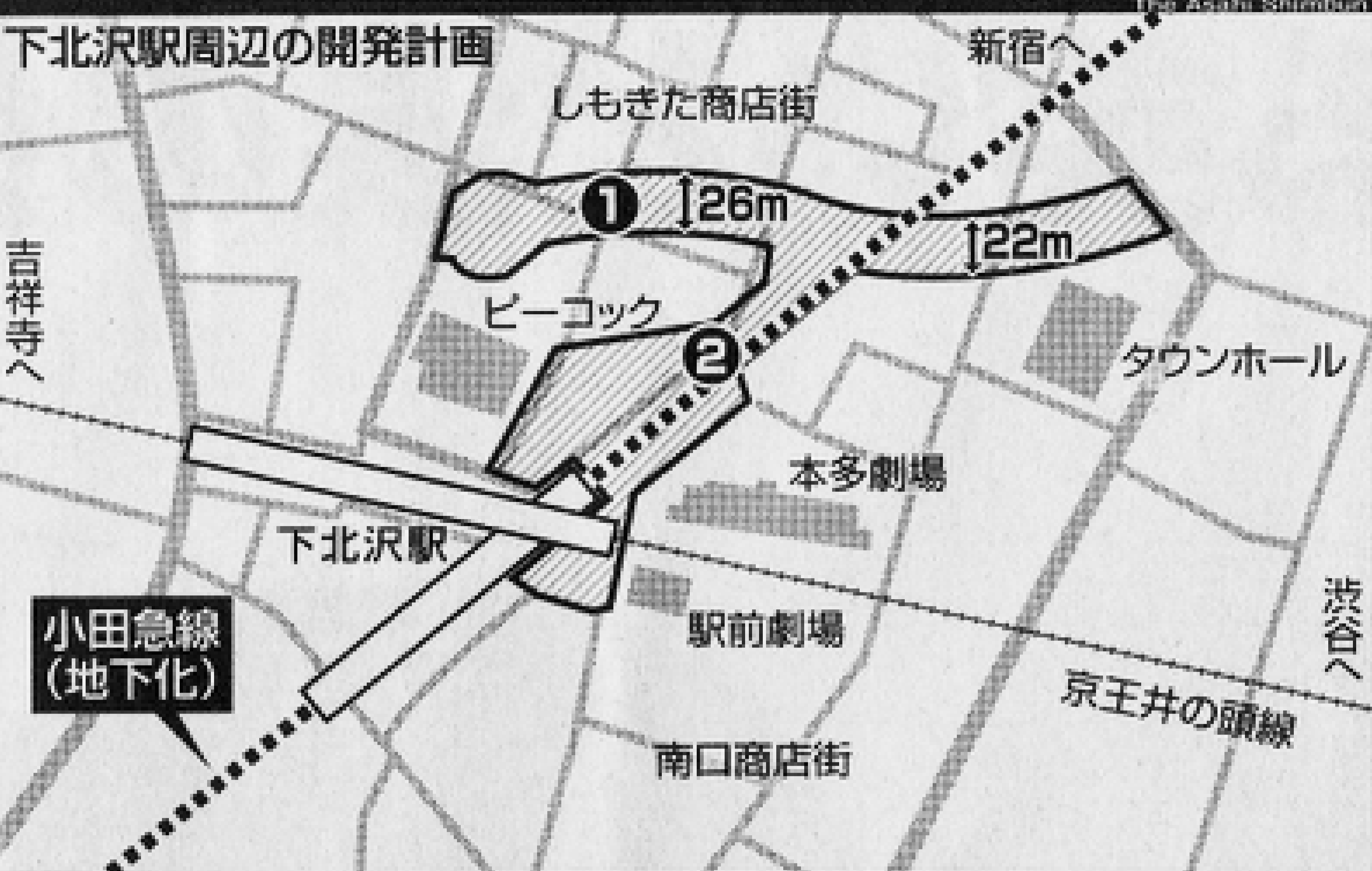
## 賛否 依然激しく対立

小田急は2013年の地下化を予定。これに合わせて区は、駅前に幅26mの道路（補助54号線）を設け、駅前ロータリーを整備する。このことで防災面の充実を図りたいとする。これに対し反対する市民団体などは、狭い路地に小さな商店が並ぶ「シモキタらしさ」が開発で失われると主張。両者の意見は平行線をたどっている。

この日の都計審も、賛成、反対の委員が激しくぶつかった。地区計画案の住民への公告縦覧では、約1千件の意見表明のうち計画反対が約6割を占めた。委員からは「住民合意ができない段階では、都計審としては了承できない」との指摘もあった。「話し合いにすべての人が参加できる仕組みがあれば、ここまで大きな反対は残らなかったのでは」と区側の対応を批判する意見も相次いだ。

一方、賛成する委員からは「計画実施を1日延長は「都計審で決定しても、今後、実現までには無数の問題がある。だからからも疑問の出ないように、公正、中立な運営を区にしてもらいたい」と要望を述べた。

区都計審の東郷尚武会長は「都計審で決定して、今後、実現までには無数の問題がある。だからからも疑問の出ないように、公正、中立な運営を区にしてもらいたい」と要望を述べた。



区は「計画を白紙に戻すことを前提とした意見は現実的ではないが、住民側の考えには耳を傾けていきたい」と話した。計画に反対する市民団体の一つ「Save the 下北沢」の金子賢三代表は「実際の道路工事が始まるまでには、まだ時間がある。市民の意見を反映した計画に変更できるように今後も努力していきたい」と話した。

区は「計画を白紙に戻すことを前提とした意見は現実的ではないが、住民側の考えには耳を傾けていきたい」と話した。計画に反対する市民団体の一つ「Save the 下北沢」の金子賢三代表は「実際の道路工事が始まるまでには、まだ時間がある。市民の意見を反映した計画に変更できるように今後も努力していきたい」と話した。